

目次	■ 多文化関係学会第19回年次大会について	2
	■ 2019年度・2020年度理事会議事録抄録	2
	■ 地区研究会報告 関東…4 中国・四国…6	4
	■ お知らせ Web管理委員会より…6 学術委員会より…6 学会誌編集委員会より…7 事務局より…7 新入会員紹介…8 会員新著紹介…9 NL委員会より…9	6
	■ 編集後記	10

CONTENTS	■ Announcements of the 19th Annual JSMR Conference	2
	■ Records of the 2019 & 2020 Board Meetings	2
	■ Reports from the Regional Study Meetings Kanto…4 Chugoku・Shikoku…6	4
	■ Announcements From the Web Committee…6 From the Academic Affairs…6 From the Journal Editorial Committee…7 From the Business Office…7 Introducing New Members…8 New Publications…9 From the News Letter Committee…9	6
	■ Editor's Notes	10

## 多文化関係学会 第19回 2020年度年次大会について

年次大会準備委員長 小坂 貴志（神田外語大学）

多文化関係学会会員のみなさま

新型コロナウイルスによる非常事態の最中、会員のみなさまにおかれましては、相変わらずにお過ごしのことをご願うばかりです。

第18回の年次大会が終了した直後に、第19回の年次大会準備委員会を結成し、当初は通常開催のつもりで様々な意見を募り、大会の準備を進めておりました。ところが、みなさまもご承知の通り、感染は拡大する一方で、長期化も予想され、大会準備に影響が出る状況が続いております。

しかしながら、会員のみなさまにとりましては、研究発表をしていただく貴重な機会となる年次大会を中止にはいけないと、大会準備委員会や臨時に開催されました理事会で審議を行ったところ、「オンライン開催」にて準備を進めていくと

の結論に至りました。

一方、今後の感染状態がどのような方向に進むかは誰も予知できず、万が一を想定して大会の延期も検討のひとつの選択肢として考えております。また、オンライン開催と一言で申しましても、さまざまな課題があげられ、かつ、オンライン開催で会員のみなさまにどの程度ご興味を持っていただけるかもわからないのが実情です。

そこで、6月開催予定の理事会にて意味のある最終決定を下すにあたっての参考にさせていただければと、学会Webサイトにアンケートを作成いたしましたので、オンライン年次大会に関して、ぜひともご意見をお寄せいただければ幸いです。何卒よろしくご意見申し上げます。

## 多文化関係学会 理事会議事録 抄録

### ■ 2019年度 第4回理事会 議事録

日時：2020年3月13日（金）10時～12時

場所：オンライン開催（LINE）

出席者（敬称略、順不同）7名：田中、内藤、武田、宇治谷、田崎、河野、出口

欠席者（委任状あり、敬称略、順不同）10名：金本、松井、小坂、馬場、畠中、江藤、岡村、小林、岡部、湊

#### 1. 報告事項

##### (1). 事務局報告（事務局長）

- ・現時点での会員数は、正会員243名、シニア4名、学生64名、合計311名。
- ・アクセライトからの見積もり、合計4万6千円増。会員の移動報告分の増額。

##### (2). 各種委員会報告（各委員会委員長）

- ・財務、ウェブ管理&広報、選挙管理、北海道・東北地区研究会、中国・四国地区研究会、九州地区研究会、特に報告なし。
- ・紀要は締め切り延長を周知予定。

- ・ニューズレター委員会は次のニューズレターの原稿依頼予定。コロナウィルスの影響で開催されていない研究会が多いので内容を検討する。一案として若手の会について会員に案内する。5月7日締め切り予定。
  - ・関東地区研究会2月15日（土）、11名の参加あった。「多文化に生きる児童・生徒のケア」というタイトルで熊本エリザ先生の講演、ディスカッションが行われた。
  - ・中部・関西地区研究会はコロナウィルスで中止。延期で開催予定。
- (3).2019年年次大会報告
- ・会員67名、非会員34名、合計101名の参加があった。発表者21名（研究発表17名、ポスター2名、辞退者2名）。収入752,100円 支出749,048円であった。
- (4).20周年記念事業について
- ・特になし
- (5).第19回（2020年）年次大会についての報告
- ・10月25日・26日に開催を希望しているが、開催校の近畿大学のスケジュールが未定なため現在正式決定ではない。プレカンファレンスは朝鮮学校とコリアタウンを訪問することが検討されている。基調講演は日程が決定してから依頼予定。

## 2. 審議事項

- (1).紀要投稿規程改案および基調講演の論文文化について
- ・基調講演を掲載する場合、投稿論文の掲載本数とのバランスを考慮されなければならないことが指摘された。また、論文誌の電子化とともに議論されるべきであるため、同時今後、下記(3)で提案された課題解決WGにて、関連委員会が検討していく。
- (2).文書の暗号化について
- ・個人情報に関しては基本的にはパスワードをかけるが、詳細に関しては個人の判断に任せることが承認された。
- (3).多文化関係学会学術の質向上WGミーティング
- ・課題解決のために、多文化関係学会学術の質向上WGミーティングの立ち上げが承認された。
- (4).その他
- ・理事会と臨時総会の開催がコロナの影響で開催できるかどうか未定。臨時総会に関しては、予算の承認が必要なので、もし開催できなかった場合は理事会の仮承認で執行できるようにし、次回の総会で本承認を行ってもらうことが決定された。
  - ・次回の理事会のリクルートを委員会ごとにしていく。

\*2020年度第1回理事会（2020年6月開催、場所未定）

以上

## ■2020年度臨時理事会議事録

日時：2020年4月13日（月）13時30分～15時30分

場所：オンライン開催（ZOOM）

出席者（敬称略、順不同）13名：小林、田中、湊、岡村、馬場、小坂、畠中、金本、田崎、河野、江藤、内藤、出口

欠席者（委任状あり、敬称略、順不同）4名：武田、松井、宇治谷、岡村

## 1. 審議事項

- (1).2020年度第19回大会について
- ・2020年度は10月に近畿大学で開催予定であったが、現在新型コロナウイルス感染症拡大の影響で開催校の学事暦が大幅に変更され、後期にも影響する可能性が大きい。加えて10月には資格試験やイベント等が入る可能性もあるため、会場を借りられるめどがない。

- そのため、4月4日に大会準備委員会がオンラインでの開催に関する提案書を執行部に提出。本提案や他学会の動向を基に、大会開催のあり方について議論を行った。
- オンラインで大会を開催する場合の懸念、大会を中止・延期した場合の問題点について検討、議論した結果、現時点では次の通り決定する。
  - ・ 例年通りの会場校での開催は取り止め、オンライン開催の可能性を検討する。開催の可否については、緊急事態宣言等の動向を見て、次回理事会であらためて検討する。
  - ・ 大会内容は一般研究発表と総会に限定する。
  - ・ 以上について、学会サイトおよび会員へのメールで告知する。文面は準備委員会が検討する。
  - ・ オンラインで大会を開催する場合に研究発表を行う意思があるかどうか、オンラインで大会に参加する場合にどのような障害があるかについて、準備委員会がweb上でのアンケートフォームを作成し、会員の意見を募る。

### (2). 決算書の承認時期について

- 外出自粛や大学による出張禁止等が続いた場合、5月に臨時総会の開催が行えなくなる。そのため、決算書の承認について、秋の総会まで延期する。
- ただし、必要な支出を行うには、予算案を早急に作成して成立させる必要がある。このことから、財務委員長に仮案となる場合も含め、予算案策定が5月中に可能かを問い合わせる。
- 予算案については、臨時総会が不可能なことから、次回理事会にて審議、承認を経て成立する特例措置を講じる。

### (3). 事務局後任について

- 田中先生の公認候補として、石井英里子准教授（鹿児島県立短大）に今年度から事務局業務に携わっていただく。

## 2. 報告事項

### (1).2020年度学会誌編集委員会メンバーについて

- 金本編集委員長より、2020年度学会誌編集委員会メンバーについて報告があった。

以上

# 地区研究会報告

## ■関東地区研究会報告

日 時：2020年2月15日（土）13：30～16：00

場 所：成城大学 7号館725教室

講 師：熊本エリザ 先生（横浜インターナショナルスクール）

テーマ：「多文化に生きる児童・生徒のケア」

初めに地区委員長の武田先生から熊本先生のご紹介と、多文化関係学会及びThird Culture Kidsの説明があった。Third Culture Kidsは、もとは外交官、駐在員、軍隊、教会関係者などの子どもとして両親のバックグラウンドと異なる土地で生活する子供を指していたが、近年、より多様な事情と、状況（移民、難民、国境周辺在住による越境学習、親の選択による国際的環境での学習など）下の子どもを対象としてCross Cultural Kidsとして認識されるようになった。



熊本先生は、Cross Cultural Kidsを対象とした学校、横浜インターナショナルスクール(以下YIS)でのスクールカウンセラーの仕事を通して得た経験と知見を講義し、その結果得られた意見を参加者間で交換をすることを目的にお話をされた。

講義では、スクールカウンセラーがどのような仕事であるか、YISで生じている様々なケースを取り上げ、どのようなトラブルが起こりうるか、また、先生がスクールカウンセラーとしてどのように対応しているかが、学校の方針と共に紹介された。特に印象的なトラブルとしては、言語能力に関するものが挙げられる。例えば、日本人の両親が子どもの教育のためにYISに入学させたところ、子どもが一般の日本の学校へ行ったがったというケースである。子どもにとっては、学習言語が英語であることは、学習を進めることがより困難なものになる。こうした子どもは学習言語である英語でも、母語である日本語でも現象を説明できないという問題に陥る可能性がある。母語と異なる言語環境で学習を進める子どもの多くが、学習の理解を進めるための言語による説明が難しいという問題を抱える可能性がある。また、このような、2つ以上の言語のどちらも十全に伸ばせなかった場合、学習以外の点でも、自身の気持ちを表す言葉を知らないために、それを伝えることができず自身の気持ちを暴力的な行為で示すといったことも起こりうる。

このような問題に対して、熊本先生はスクールカウンセラーとして、子ども一人一人に向き合って問題を掘り起こし、解決を探る役割を担

う。解決のために何をするかを決めるのは本人ではあるものの、カウンセリングを通してどのような問題があるかを明らかにする(言葉にする)役割をもっている。

参加者の中には、自身がCross Cultural Kidsとしての経験を持つ人もいて、自身の経験を振り返って、いかにしていじめを避けようとしたか、周りが自分をどう見ているかに気がついたかといった話が上がった。その話は、見た目と、言語(特に英語)の発音が違うことを理由に、他者を「自分たちと違う」と見る集団があり、それが差別やいじめの発端となりうることが示された。YISではどういったことがいじめであり、どういう態度がそれに加担することなのかを繰り返し伝えていき、いじめを許さない体制を作っていく様子が熊本先生から話されたが、異なる文化背景を持った集団であるからこそ、いじめを明確に言語化し、異なること(特に見た目)理由とした差別を許さない体制ができていると感じた。

参加者の話を通して、特に子どもの場合、差別は、見た目のような単純なことから端を発していて、インターナショナルスクールはそれを超えていく教育を実践していると感じた。その一方で、理解できない文化の差異は完全に超えることは難しく、YISの教師たちも、自分と異なる文化背景を理由にした問題を理解するように努力していることも話された。熊本先生は、知らない文化を背景としたトラブルや子どもの抱える問題には、一つ一つ向き合うことで知っていくと、自身の経験を踏まえて話していた。

報告者：小笠 恵美子 (昭和音楽大学)



## ■中国・四国地区研究会

3月8日（日）に予定しておりました研究会は、新型コロナウイルスの感染症拡大を受け、開催を延期させていただくこととなりました。事態が改善された折には日程を調整し、研究会を開催したいと思っております。その際には、どうぞよろしくお願いいたします。

<中止の内容>

**話題提供者**：Stephen M. RYAN 教授(山陽学園大学総合人間学部言語文化学科)

**テーマ**：Re-thinking “culture” as “difference” in the light of recent findings from Brain Science. 最近の脳科学調査の観点から、「文化」を「差違」として考え直す

(中国・四国地区研究会委員長 江藤由香里)

## Web 管理・広報委員会より

≪登録事項の更新をお願いします≫

### ■会員専用サイトでの所属・住所等の変更

ご所属・e-mailアドレスなど会員登録情報の更新をお願い致します。会員登録情報の変更は会員各自で行えます。登録情報を更新しなければ学会からのお知らせが届きません。登録情報に変更があった場合は更新をよろしくお願い致します。また、e-mailアドレスについては、現在使用されていないアドレスの方がいらっしゃいますので、今一度ご確認ください。なお、IDやパスワードがお分かりにならない方は、畠中 [hatankao@hirakata.kmu.ac.jp](mailto:hatankao@hirakata.kmu.ac.jp)（全角の@を半角の@に変更してください）宛に御連絡下さい。

### ■登録情報の更新手順

1. 多文化関係学会ホームページ（URL: <http://www.js-mr.org/>）
2. 学会員専用サイト（会員番号・パスワードを入力し、ログインボタンをクリック）
3. 登録情報更新をクリック
4. 変更点を修正し、一番下の更新をクリック

(Web管理・広報委員会委員長 畠中 香織)

## 学術委員会より

新型コロナウイルスを取り巻く状況により、今年度の学術推進活動について、当初計画からの変更を余儀なくされる可能性が出てまいりました。学会創設20周年記念事業の3年目となる2020年度の企画についても、長期的展望を持ちながら、複数のオプションを検討して進めてまいります。このような状況であるからこそ、創造的な方法で、学会における知的活動の推進に向けた提案ができるよう、学術委員一同、努めてまいります。

(学術委員会委員長 岡部 大祐)

## 学会誌編集委員会より

### ■『多文化関係学 第17巻』（2020年度）に関して

学会誌編集委員会委員長を務めます金本 伊津子（桃山学院大学）です。学会誌編集委員会（岡村 郁子副委員長（東京都立大学）を含む新旧の編集委員11名と原 和也アドバイザー（明海大学））と『多文化関係学』の第17巻の編集作業に早速に取り掛かっております。学会員の研究発表の場である学会誌のレベルを高めつつ、『多文化関係学』の知見を積極的に発信してまいりたいと思います。

ご投稿いただきました皆様には感謝を申し上げますとともに、これから査読・編集の作業を進めるにあたり、学会員の皆様には査読委員としてご協力を賜りますようお願い申し上げます。学会誌の発行予定は、例年通り、12月を目途としております。

#### 2020年度学会誌編集委員会

委員長	金本 伊津子（桃山学院大学）
副委員長	岡村 郁子（東京都立大学）
委員	大澤 麻里子（東京大学）
委員	クリス オリバー（上智大学短期大学部）
委員	坂井 伸彰（名古屋大学）
委員	鳥塚 あゆち（関西外国語大学）
委員	中野 遼子（大阪大学）
委員	奴久妻 駿介（都留文科大学）
委員	平山 修平（桜美林大学）
委員	水松 巳奈（東洋大学）
委員	矢元 貴美（大阪大学）
委員	叶 尤奇（神田外語大学）
アドバイザー	原 和也（明海大学）

（委員は五十音順）

（学会誌編集委員会委員長 金本 伊津子）

## 事務局より

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、多くの大学が遠隔授業を実施しています。慣れないことや新しいことも多く、また外出の自粛もあり、非日常の日々と思いますが、皆様にはお変わりなくお過ごしでしょうか。

現事務局体制も2期目の2目になりました。本年度も事務局一同、皆様のお力をお借りしながら、今年も事務局運営を行ってまいりますので、どうぞよろしく願いいたします。以下、事務局からのお知らせです。

お問い合わせ内容によって、連絡先が異なります。事務作業の効率化・削減のためにも、学会員の皆様にはお手数ですが、該当する問い合わせ先にご連絡くださるようお願いいたします。

## ■ 事務局所在地について

〒120-0023 東京都足立区千住曙町34-12

東京未来大学 モチベーション行動科学部

田中 真奈美 研究室内：多文化関係学会 事務局

\*Eメールアドレス admin@js-mr.org (全角の@を半角の@に変更してください)

## ■ 会費納入状況に関するお問い合わせについて

2019年度より、委託先が変更となりましたので、お知らせします。

お問い合わせは、会費に関する業務を委託しております [株式会社アクセライト](http://www.accelight.co.jp) jsmr@accelight.co.jp (全角の@を半角の@に変更してください) までお願い致します。その際、メールの件名は「多文化関係学会」とし、ご自分の氏名、会員番号、ご用件をお書きください。また、退会希望の場合も、会費納入状況の確認と合わせて、[株式会社アクセライト](http://www.accelight.co.jp)へご連絡ください。

3月末日までにお知らせがない場合は、自動的に会員資格が更新されます。

## ■ 住所・所属などの変更について

大変お手数ですが、学会員専用サイトにログインし、[ご自分で情報を更新して](#)いただくとともに、送付物の住所を管理している [株式会社アクセライト](#)にも[ご連絡](#)ください。

## ■ 学会ホームページ「学会員専用サイト」の会員番号とパスワードについて

学会ホームページ (HP) <http://www.js-mr.org/> では、登録情報の更新などを行える「学会員専用サイト」があります。情報の確認及び更新をお願い申し上げます。学会員専用サイトへのログインには、会員番号とパスワードが必要です。お忘れになった方は、[事務局](#) admin@js-mr.org (全角の@を半角の@に変更してください) までお問い合わせください。

## ■ 学会誌『多文化関係学』バックナンバーの販売について

学会誌の販売は、[株式会社インターブックス](#)に委託いたしております。学会誌バックナンバーのご購入をお考えの会員の方々は、恐れ入りますが、学会事務局ではなく [インターブックス](#)にお問い合わせください。

ホームページ：<http://www.interbooks.co.jp/>

メールアドレス：[info\\_ml@interbooks.co.jp](mailto:info_ml@interbooks.co.jp) (全角の@を半角の@に変更してください)

電話番号：(03)5212-4652 ファクス番号:(03)5212-4655

なお、学会誌『多文化関係学』の論文は、論文検索サイトJ-STAGEにおいて順次掲載されております。

(事務局長 田中 真奈美)

## 新入会員紹介 (敬称略、入会順)

会員資格	氏名	所属	研究分野 / 業務内容
正会員	菊池 哲佳	公益財団法人 仙台観光国際協会	多文化共生事業論
正会員	シャザディグリシャウティ	青山学院大学総合文化政策学部	社会学 (マスコミュニケーション論、ライフスタイル論、外国人労働者問題)
正会員	清水 順子	北九州市立大学国際教育交流センター	日本語教育
正会員	藻谷 ようこ		多文化教育、多文化社会の教育政策・理論・子どものアイデンティティ発達
正会員	高松 みどり	大阪教育大学	教育哲学

(2020年1月1日から2020年4月30日に入会された方)



## 会員新著紹介

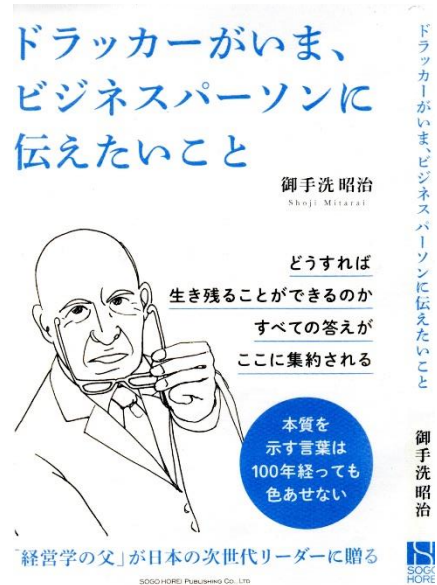
### ■ 『ドラッカーがいま、ビジネスパーソンに伝えたいこと』

著 者：御手洗 昭治

出版社：総合法令出版社（¥1,300+税）

出版年：2020年2月

内 容：「経営学の父」とも呼ばれたドラッカー。彼は、世界の動きが予測できた。イギリスのマガレット・サッチャー首相は、ドラッカーの「民営化論」を読み世界の民営化ブームに火をつけた。他方、ニクソン大統領は、ドラッカーの忠告を無視したため、失脚する。デジタル化、グローバル化が進む時代、日本は「メガ・チェンジ」の競争に生き残れなければならない。そのための大きな足掛かりとなるのが、本書で取り上げるドラッカーの「強み論」や、ビジネスのエッセンスである発想法、組織内対人コミュニケーション、マネジメント、自己啓発論を含む経営思想なのである。



### ■ 『再帰的近代のアイデンティティ論——ポスト9・11時代におけるイギリスの移民二世世代ムスリム』

著 者：安達 智史

出版社：晃洋書房（¥5,800）

出版年：2020年3月

内 容：本書は、ポスト9・11時代に生きるイギリスの移民二世世代ムスリムを、再帰的近代のアイデンティティ論を用いて分析したものである。実際のインタビューをもとに、多文化主義、女性とエージェンシー、情報化、解釈実践、ヒジャブの意味論といった多様な切り口により、「聖なるものを人間化する」現代ムスリムのリアリティを描きだしている。それにより、文明の衝突という枠組みで語られがちなイスラーム理解を刷新し、「生きられた宗教」としての新たな像を提供している。



## ニュースレター委員会より

### ■ 著作図書案内・書評・海外シンポジウム参加報告記事募集

ニュースレター(NL)委員会では、次回38号(2021年2月発行予定)掲載記事として、会員の皆様の著作図書案内、海外シンポジウム参加報告、震災関連や多文化関係学会に関連した研究、関連学会参加報告記事などを募集しております。次の(1)から(3)の記事をNL委員会にご送付いただきますようお願いいたします。

## 募集する記事の内容

- (1) 学会の趣旨に関連すると思われる著作・訳書などを出された場合  
募集対象とする著作の発行時期: 2020年5月から2020年12月末まで  
書名、著者名、出版社名、出版年、総ページ数と本の内容を200字程度で紹介
- (2) 学会の趣旨に関連すると思われる著作で、会員に広く紹介することが望ましいと思われる場合  
募集対象とする著作の発行時期: 2020年5月から2020年12月末まで  
書名、著者名、出版社名、出版年、総ページ数と本の書評を200字程度でまとめる
- (3) 学会に関連する海外のシンポジウムや震災関連のシンポジウム等、関連学会に参加された場合  
募集対象とする時期: 2020年5月から2020年12月末まで

◆ 記事の送付期日: 2021年1月9日

◆ 記事の送付先: NL委員会 内藤 伊都子宛 itnaito@ed.tokyo-fukushi.ac.jp (全角の@を半角の@に変更してください)

## ■ 関連学会の大会紹介記事の募集

会員に紹介するのにふさわしい関連学会の大会情報を募集しております。具体的には、(1) 学会名、(2) 大会名、(3) 大会テーマ、(4) 大会日時、(5) 会場、(6) その他詳細(120字程度)をお書きのうえ、NL委員会 内藤 伊都子宛 itnaito@ed.tokyo-fukushi.ac.jp (全角の@を半角の@に変更してください) に送ってくださいますようお願いいたします。

(NL委員会委員長 内藤 伊都子)

## 編集後記

ニュースレター第37号をお届けいたします。今号では、第19回年次大会についてお知らせする予定でしたが、ご存じの通り、新型コロナウイルスを取り巻く状況により、例年のように大会内容をお伝えすることが叶いませんでした。また、予定されておりました各地区研究会におきましても中止になるなど、影響が出ております。会員の皆さまにおかれましても、研究活動はもとより、生活の様々な面において影響が出ているものと思われます。

今後、年次大会や各地区研究会の開催お知らせ等につきましては、ホームページでご確認いただければと思います。次号を発行するときには、活発な研究活動の模様をお届けできる状況になっていることを願うばかりです。

(NL委員会: 内藤 伊都子・守崎 誠一)